

レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成29年3月28日	使用開始日	2017/4/
登録診療科	消化器内科・外科	申請医師	福永 睦
レジメン名	ペバシズマブ+FOLFOXIRI		
疾患名	大腸がん	適応の備考	CVポート
適応分類	進行再発		
1コース日数	14 日間	総コース数	コース催吐性リスク中等度
抗がん剤投与量・投与日 ペバシズマブ5mg/kg day1、イリノテカン150mg/m ² day1、オキサリプラチン85mg/m ² day1、5-FU2400mg/m ² day1(46時間)			

治療スケジュール・投与日程(投与日は●)		(day)																
投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
1	主ルート	生食20mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射																	
2	主ルート	生食50mL	1 本 / body	5 分	●													
	中心静脈注射																	
3	主ルート	生食100mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射	ペバシズマブ	5 mg / Kg	90 分	●													
投与速度は1回目90分、忍容性が確認されれば、2回目60分、3回目以降30分で投与可。																		
4	主ルート	生食250mL	1 本 / body	30 分	●													
	中心静脈注射	ホスアプレビタント注150mg	1 本 / body		●													
抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴する																		
5	主ルート	ハロセトロン注バッグ0.75mg50mL	1 本 / body		●													
	中心静脈注射	デキサート注1.65/0.5mL	3 本 / body	30 分	●													
デキサートは3.3mgでも可																		
6	主ルート	5%ブドウ糖液500mL	1 本 / body	90 分	●													
	中心静脈注射	イリノテカン	150 mg / m ²		●													
7	主ルート	5%ブドウ糖250mL	1 本 / body															
	中心静脈注射	オキサリプラチン	85 mg / m ²	2 時間	●													
Rp7とRp8を同時に投与開始する																		
8	側管	5%ブドウ糖液250mL	1 本 / body	2 時間	●													
	中心静脈注射	レボホリナート	200 mg / m ²		●													
Rp7とRp8を同時に投与開始する																		
9	主ルート	生食100mL	1 本 / body	46 時間	●													
	中心静脈注射	5-FU	2400 mg / m ²		●													
注射 携帯型デバイスホルダーサブル注入ポンプ 希釈後の液量を総量140mLとなるよう調製																		

※並行して投与する場合は、コメントを入力する。(例:Rp2とRp3を同時に投与開始する。)

【投与上の注意】

Rp7とRp8を同時に投与開始する

Rp4生食+ホスアプレビタントは削除可能(その場合は、デキサート注を9.9mg(6.6mgも可)にする)

初回投与時及び嘔気、倦怠感が強い場合はホスアプレビタントと併用してday2にデカドロン錠4mg/day、day3にデカドロン錠8mg/dayの内服を推奨する。

穿刺時、生食を使用し、ポートの通過を確認すること。

オキサリプラチン:希釈は5%ブドウ糖液のみ。

ペバシズマブ:希釈は生食のみ。

ペバシズマブ:投与速度は1回目90分、忍容性が確認されれば、2回目60分、3回目以降30分で投与可。

・ホスアプレビタントは血管痛が報告されているため、溶解には可能な限り生食250mLを使用すること(最低でも100mL以上)。

・ホスアプレビタントは抗がん剤投与の1時間前に30分かけて点滴すること。

・ホスアプレビタントの次に5-HT3受容体拮抗薬+デキサート注を投与して、その次に抗がん剤を投与すること。